

令和6年度「地域学校協働本部事業」 楡葉町地域学校協働センター【家庭教育部門】の取組事例

「まちや関係機関と連携した支援体制の構築」(福島県楡葉町)

取組の概要や経緯

楡葉町では、保護者の多くが思春期など多感な時期に原発事故災害と4年半にわたる避難生活により、心理的ストレスを強く感じており、そうした保護者に育てられた子どもの中には、不安感や依存度が強く、集団への不適応などを示す子どもが少なくない現状であった。そうした保護者の家庭教育力を高めることを狙いとして、令和5年度に地域学校協働センター内に家庭教育部門を開設した。また、こども園では発達に難を持つ園児や家庭において育てにくさを実感している保護者も少なくないことから、令和6年度にこども園に隣接する子育て支援センターへと拠点を移し、多様な保護者が立ち寄りやすい環境で保護者と繋がれる体制を展開することとした。



内容

- 恒常的な支援体制の構築
 - ・子育て支援センター内にて毎週火曜日に支援員が相談業務を実施
- こども園の運営に、発達や心理の専門的な知見を活かした支援を展開
 - ・月に2度程度、スクールカウンセラーによる巡回相談指導を実施
 - ・発達や心理、特別支援教育などに関する保護者向けの講座を年に4回実施
- 離乳食教室やベビママ教室への継続的な参加
 - ・町の保健師が主催する教室等に参加し、保護者と継続的なつながりを図る
- 子育てをテーマとした、保護者間でつながる機会や学習の機会を設定
 - ・親子交流イベントをこども園と共催で実施、保護者向けの講話に参加
- 家庭教育に関する支援側の知識の定着
 - ・支援員が子育てや家庭教育に関する研修会等へ参加

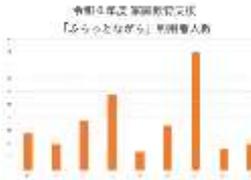


ポイント

- 保護者の出入りが多い子育て支援センターに拠点を移すことで、多くの保護者に活動を認知してもらうことができる。また、こども園とつながることで保護者とつながる機会が増えた。
- 昨年度に引き続きスクールカウンセラーを町の単費で活動してもらい、連携を深めることで、心理学に基づいた専門的な支援を家庭の状況に基づいて、個々に実施できる体制を構築した。

成果

- 支援員と保護者が関わる機会を増やしたことで認知度が高まり、こども園児以外の利用者や地域の方の利用にもつながった。
- 毎週実施している相談業務の利用者数は、多い月で40名を超えた。リピーターの方もおり、ほぼ毎週利用者がある状況を創り出すことができた。これによって利用者と支援者との信頼関係が生まれた。



今後の方向性

- 残念ながら親子参加型のイベントなどを核として活動ができなかったため、アウトリーチ型の支援活動も視野に関係機関とのつながりをより深めて、多様な支援を展開していきたい。
- 恒常的な相談業務の実施について、より多くのニーズに応えるために、開催日時や活動体制について改めて検討していきたい。

令和6年度 家庭教育支援 「ふらっとながら」利用者人数

